

令和8年度 第2回種子島地区自立支援協議会

日 時 令和8年8月18日(火)

午前10時00分～12時00分 予定

場 所 中種子町中央公民館 大ホール

会次第

1. 開会

2. 協議

(1) 令和8年度 各専門部会から 課題及び協議等

- ・はたらく部会
- ・くらし部会
- ・こども部会
- ・相談支援部会
- ・権利擁護部会

(2) その他

3. 連絡事項

第 3 回 種子島地区自立支援協議会 令和 8 年 3 月 16 日(火) 10 時~12 時 予定

4. 閉会

Memo

令和8年度 第2回 自立支援協議会 はたらく部会

第2回ははたらく部会 中ポツ合同会議について・・・

内容：くまげ障害者就業・生活支援センターより昨年度の実績報告

就労選択支援事業についての説明

他、ハローワーク、鹿児島障害者職業センター、鹿児島障害者職業能力開発校

(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 特別支援学校からの報告など

研修 「在職者のための情報整理シートの活用法」について

講師 鹿児島障害者職業センター カウンセラー 宮島玲子 氏

(ご意見、参考になった内容)

→GW の中で事業所が雇用している障がい者の実態を聞くことができて有意義だった。

事業所やB型の実例を聞ける場があると良い。

→色々なケースや意見を聞けて有意義だった。GW の中で他業種の方と話す機会があったり意見が聞けて良かった。

→会の形としてここ4～5年は年1回は、はたらく部会はなかポツとの合同会議としてこの形でやってきているが、これでは中ポツの報告会になっているので別々で開催してはどうか？ はたらく部会としてもっと協議する時間をとって課題に取り組むべきではないか？ →今後、開催方法、招集メンバーなど再度検討していく。

就労支援事業所アンケートから

困難事例(事業所が抱えている問題より・・・)

○ 利用者の安定した通所について

利用者の利用頻度が、週1～2日の方もいて、また高齢の方も多いため、週5日安定して利用する利用者が非常に少なくて困っている。利用登録している方の人数はある程度いるが1日平均の利用者が少なくなるためこの改善に取り組んでいる。

利用者の約80%が精神障害者で体調精神の不安定による欠席が多い日程や作業調整が安定しない。一度崩れると、長期の休み入院になるパターンもある。

→体調、特性に合わせて、座位中心、立位中心等作業環境を変えている。「通いたいけど通えない」などの利用継続困難なケースでは生産性より継続しやすさを優先している。

通所日の変更、休憩の頻度を話し合い確実に来られる曜日や時期を探っている。受診、訪問看護、デイケアなど関係機関と情報共有しながら支援体制を組み直すなどしている。

曜日や、送迎車の変更、作業内容の変更、本人の気持ちを優先しながらまた、評価しながら利用日数を増やすことなどを促していく。

○ 暑さ対策について

夏場の作業は40℃を超え、熱中症対策に配慮している。体調不良者も出ており現在も改善方法を模索中。

→空調服の導入、空調設備(スポットクーラー等)の導入、かき氷、すいか、水分補給
こまめな休憩など

事業者だけで解決する問題か、何かの支援策解かないのか？

事業所 A：ミスト、スポットクーラー、風鈴等を活用している。

事業所 B：菊栽培ハウス内には長く居ないことを徹底している。

夏は特に水分補給と体調変化に気を配っている。

事業所 C：高額なので全員分ではないが、空調服を購入した。

○ 利用者のはたらく意欲、モチベーションについて

「もっと働きたい」「お金が欲しい」という方に対して・・・

- B 型に籍を置きながら一般就労で10時間以内なら就労ができる。施設外実習の経験をしてもらう。中ポツに繋ぐ。法人内の障害者雇用などの検討。工賃への還元
- 集中力が持たない、楽しみが欲しいという方に対して・・・
- 定期的に旅行などのイベントを開催。余暇活動の導入。ジュースの日を設けた。毎週水曜日にジュースの日を設けたことで朝からモチベーションが上がっている。

○ 新規利用者の獲得について

現在利用している方の年齢が高齢化してきているが、若い方がなかなか入ってこない。

- 特別支援学校の実習などの受け入れから新規に繋げていく。
- 車で通所なども可としている。見学、体験利用などいつでも受け入れている。
- お仕事ファイルの活用、本人のニーズ特性を活かした仕事選び、多様なニーズに対応した作業所の環境づくりが必要。

○ 人材不足問題について

利用者さん同士のトラブル等があり、配置場所、作業場所に困ることがある。

○ 要望

就労 A 型希望で作業内容が本人と合わず作業内容のレパートリーや在宅での仕事があればと感じることがある。

- A 型事業所が増えるといいな 在宅ワークができるといいな
- というニーズがあるということ。今後 増えていく事はあるのか？ 見込みはあるのか？
- 今後、はたらく部会で検討していく。

事業所 A：B 型職種は 20 数種あり、この中から選んでもらう形をとっている。

GH 利用者は約 60 名だがほとんどの方が通所作業所を利用できている。

今後の活動予定

- 9月26日(土) 福祉祭りにて協議会広報活動や事業所の販売活動
- 11月5日(木) 事業所見学予定

くらし部会より

● 生活介護の課題

- ◇ 高齢化、重度化している
- ◇ 認知が入ってきている利用者への対応も。介護保険対象になれば高齢者施設に変わる
⇒共生型生活介護で65歳を過ぎても同じ場所でサービスが受けられる(オリオン)
- ◇ 他事業所の日中活動やレク活動や強度行動障害の方への対応等、事業所間で見学や実際に一緒に活動しながら研修ができれば

● グループホームの課題

- ◇ 高齢の利用者が重度化していくと、いつまで GH で対応できるか？ ⇒入所施設への移行
- ◇ 地域連携推進会議の様子や感じた事として、地域の理解を得る必要がある

● 地域移行地域定着推進会議での課題

- ◇ にも包括の構築に向けて進捗状況を確認し、これから何を優先して取り組んでいくか？検討した

課題	あったらいいな
不十分な医療資源	・ 緊急時受け入れてくれる医療機関(日、祝、夜間) ・ 精神科医の往診や訪問
地域との繋がり 社会の理解不足	・ 地域活動支援センターやサロン等立ち寄れる場所があるといい(集落行事、地域の高齢者サロン、地域の集い交流の場も) ・ 地域住民が集落に障害者が暮らしている事を認識してくれる ・ ピアサポーターに地域との橋渡しをしてもらいたい ・ 地域に住んでいるその人を知る機会、研修等。気軽に借りられる場所 ・ グループホームの地域連携推進会議や自治公民館長の会議等、今ある会議に出向いて話す機会を作る
人員不足	・ 夜勤や週末対応できるスタッフの確保 ・ タイミー(隙間バイトのアプリ)の活用
ニーズの把握	・ ピアサポーターとの繋がりが持てる場を考える ・ 家族会等、家族が話せる場で聞き取り ・ ボランティアの活用 ・ 当事者のおしゃべりの場(研修、講習、茶話会)
住む所がない	・ グループホームの多様化(女性・バリアフリー・マンション型等) ・ グループホームの軽度の方が次のステップに移れる支援
本人が病識を持つ事が難しい	・ 家族の相談の場 ・ ピアサポーターの話を聞く機会が欲しい
退院者の把握ができない	・ 病院や施設からの情報 ・ ケース会議や情報を共有できる場があれば ・ 推進会議でも入院者や退院者の人数把握ができれば

掘り下げて
いけたら

高齢者サロンや地域の交流の場、活動を担っているは誰か？
障害者も利用できるのか？

地域との関りを支援できるのは誰？

子育て世代や時間に制限のある専門職や有資格者等が隙間時間に働けるように

くらし部会、自立支援協議会で課題の共有を継続する

まずは種子島、屋久島で顔合わせ

⇒くらし部会に求められる事として①課題の共有②ピアサポーター活用の企画

● 包括的性教育の研修会開催

ユースコラ鹿児島が主催している清水基金の助成事業で「障がいのある思春期・青年期の『包括的性教育』を進めるための学習会」を種子島で開催予定(12/19 詳しくは後日)

その他の意見

- ・ 高齢者は地域に生活支援コーディネーターがいる。障害者もそういったところと繋がっていったら…
- ・ 強度行動障害者向けのグループホームの必要性が言われている。
- ・ 一つ屋根の下で障害者と高齢者が一緒に住む、で良いのでは。
- ・ 共生型グループホームのあり方を今後検討してってもらいたい。生活介護やデイサービスも同様。
- ・ 家賃が高く、グループホームを出て、地域で一人暮らしすることができない。
- ・ 人材不足に関しては短期シフトを柔軟に組めるとよいのではないかな。有資格者ではなくても働き手になる。留学生の家族など今後の資源として期待できるのではないかな。
- ・ Wワークの可能性も検討してってもらいたい。
- ・ レスパイトに関しては、我が子を事業所に預けつつ、自分もその事業所で働くスタイルをとっている方もいる。

こども部会報告（第2回）

とき；令和8年7月17日（金） ところ；西之表市民会館 301 会議室 参加者 27 名

【協議内容】

1. よろーてファイルの活用について

【特別支援学級への周知】

・ファイルに関するチラシ（※1）の作成（Q&A、活用のメリットなど盛り込む）

・ファイルの利用年表（※2）の作成

⇒上記の事について検討委員会（☆）を設置

☆各市町担当、なかぼつ、保護者、事業所、支援学校で構成

【勉強会の再開】

過去の資料から、こういった形態で実施していたのか確認が必要

屋久島町自立支援協議会で作成

2. 相談支援体制の組織表（※3）の作成について

小児科医岩元先生より屋久島町の「子供の成長を支える連携ガイド」の紹介。種子島地区でも作れないかとの提言。

種子島でも今後作成を検討していく

※1～※3について検討委員会で検討を行っていく。

以下は次年度以降実施

・配布時期の検討（配布場所、問い合わせ先、自立支援協議会 HP で閲覧可能）

・健診時に活用する方法

4. その他

○ネットワーク会議の在り方について

各市町担当者より現状の説明。NW 会議の地域課題抽出という本来の目的を確認する。

○就学支援について

就学に対する情報が得られずに保護者が不安を抱えるケースがある。健診の場を利用して動画視聴を実施されたり、説明会を開催してくださっている市町村もあると伺っています。親子で安心して就学を迎えられるためにできることを支援したい。→教育委員会では就学前に説明会を行っているが、参加者が少ない実態がある。熊毛教育事務所では幼稚園、保育園等向けの研修も行っている。

今後も継続的に応援していく

○「癒しの茶話会」について（主催；種子島保護者の会検討会）

7月24日（金）10:00～12:00 星原サロン（中種子町ユリイカハウス内）

屋久島かたつむりの会（不登校児保護者の会）を迎えての種子島地区

○「種子島宇佐川研」の開催について（主催；合同会社コトノハ）

宇佐川研（発達障害臨床研究会）植竹安彦先生を招き、子どもの躓きの背景を読み解くための基礎を学ぶ講座を企画

2026年9月20日（日）9:30～12:30（予定）

会場；種子島コリーナ 定員；40名程度 ※詳細は後日チラシにて

○子供の居場所づくり研修会

（鹿児島県子ども福祉課/NPO 法人しのめフリースクール共催）

令和8年8月3日（月）9:30～15:30 西之表市民会館 301 会議室

こどもの居場所づくりの実践を「みがく」ことを目的とした研修

こどもの居場所と関係機関等の連携強化を目的とした研修

※ケース検討も予定していたが、時間が足りず未実施

この他、高速船に車椅子やストレッチャーでも乗船できる設備が欲しい、全身麻酔対応ができる歯科が島内にも欲しい、手軽に利用できるレスパイト先が欲しい等、の意見が紹介されました。

相談支援部会

医療的ケア児等ワーキンググループ

第1回会議 令和8年6月16日（火）10時～ 中種子町中央公民館第1会議室

- ・年間計画について（年5回開催 6・8・10・12・2月）
- ・ハンドブックについて（修正箇所の確認）
- ・熊毛圏域内の医ケア児等についての情報交換
- ・研修会について

第2回 令和8年8月4日（火）10時～ 中種子町中央公民館第1会議室

- ・ハンドブック修正箇所について再度検討
- ・熊毛圏域内の医ケア児等についての情報交換

・協議会への提言について

※福祉用具の貸与について

日常生活用具については、各市町ともに給付（購入補助）には対応しているが、貸与には対応していない現状。今後、県下福祉事務所会議等で確認しながらより有益な対応を検討していきたい。

※高速船への要望（再度バギーやストレッチャーが使えるようにしてほしい）

※災害が起きた時の備蓄に紙おむつも多めにしてほしい。

引続き、意向を伝えていく。

※重心の方の入浴サービスやショートステイ先が少ないあるいはない。

この問題はレスパイト先が無いことにも繋がっていることが指摘されました。

屋久島では高齢者施設が重心児の入浴受け入れに協力しているとの情報がありました。

これを受け暁星会理事長より、暁星会にも特浴があるので、お困りの場合は連絡をいただけたらという話がありました。

この他、改正医療的ケア児支援法が国会で通ったことが話題に上がりました。

7月24日、参議院本会議で全会一致により可決され、令和9年度から新たに

「医療的ケア児等および重症心身障害者支援法」が施行されることになったとのことで、医療的ケア児や重心児の「18歳の壁」問題は解消されていく方向にあるようです。

権利擁護部会より

- ・今年度は虐待防止に関して、各事業所から虐待防止委員会の委員長にお集まりいただき、島内の実態把握をしたいと考えています。日時は9月30日水曜日、午前10時からを予定しています。併せて、各事業所の職員へ向けてGoogleフォームで個別に権利擁護リスクにかかわるアンケートを実施し、その回答内容から島内の実態を把握していきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



島内在住 中学生 現在でも約¥10,000の手出しがあり家計の大きな負担となっている。要望書を提出する方向で検討していただきたい。

- ・昨今の物価高騰の影響で、紙オムツを使用している方の負担が大きくなっていると聞きます。まだ十分に聞き取りが行えていませんが、状況によっては排泄管理支援にかかわる要望書を県に提出していくことを検討していきます。

排泄管理支援等は自治体毎に障害別で上限が決まっている。西之表市単独でこれを引き上げることは難しい。今後、県下の他自治体の状況も確認し、足並みを揃えていきたい(西之表市)。

- ・令和8年度も市町広報紙に『自立支援協議会だより』を掲載させてもらっており、自立支援協議会から広く島民の皆様と共有したい情報を発信させてもらっています。自立支援協議会ホームページの「資料・発行物」に、過去の記事も含めて掲載していますので是非ご覧になってください。中でも令和6年5月号～8月号にかけての学習困難やアーレンシンドロームについての記事はまだまだ多くの方に読んでいただきたいと感じています。

- ・10月19日(月) 18:30～20:00 中種子町公民館大ホール
『あらためて学ぶ愛着を育むことの大切さ ～子供とのつながりから見えてくることとは～』
講師に鹿児島市内にある、しのめフリースクールの中村紫乃氏(臨床心理士、公認心理師こどもアドボケーター)を迎え、愛着関係の大切さにかかわる講話をしていただきます。参加費無料で、どなたでも参加できるので、ぜひこの機会にみんなで愛着についての考えを深めてみましょう。
- ・1月19日(火)～1月21日(木)の三日間、講師にフリーのソーシャルワーカーである土屋徹氏をお招きし、自立支援協議会主催の研修会が開催されます。虐待防止・権利擁護の観点からもお話をさせていただく予定です。詳細は決まり次第お知らせしますので皆様ふるってご参加ください。

- ・権利擁護部会では、誰もが認め合いながら暮らすことのできる社会の実現に向け、障害を抱える人や社会的に少数派の人々を身近に感じてもらうことを目的として、これまでも無料の映画上映会を企画してきました。
令和8年度も、本邦の障害者週間中に開催される「にじいろフェスタin種子島」当日の12月5日土曜日に、無料映画上映会の開催を予定しています。これまでとは少し趣を変え、ユニークで革新的な学校の在り方が描かれているドキュメンタリー映画『夢みる小学校』(2021年、オオタヴィン監督作品)の上映を考えています。ぜひ島内の皆様にみて頂きたいと思っています。
上映会の予定は以下のようにになっていますが、最終的に詳細が決まりましたら自立支援協議会のホームページにも掲載してお知らせします。

日時: 令和8年12月5日(土) 15時50分～17時22分 西之表市民会館大ホール 全席無料

この映画には「子ども主体の公立学校」が3校登場するとのことで、映画ホームページには『公立学校もこんなに【自由】だったことに驚かれるでしょう。』とあります。ぜひ多くの方に観ていただき、これからの学校の在り方を考える切っ掛けにしてもらえたら嬉しいです。

担当 基幹相談支援センター 荒木

種子島ジュニア福祉大使(仮称)提案について（協議会会長より）

趣旨

種子島での福祉事業はスタッフ不足が大きな課題になっております。求人をだしても福祉に興味を抱く方が少なく、介護や障がい者支援のエッセンシャルワークとしての事業の将来に、大きな不安を抱えているところです。

行政や民間でも様々な方法で人材育成にご尽力頂いておりますが、種子島地区自立支援協議会としても人材育成について具体的な活動を余儀なくされております。

必要なのは福祉に興味を抱く底辺の広がりではないかと検討し、下記の人材育成の方法を提案致します。

*種子島ジュニア福祉大使(仮称)

小学生、中学生、高校生から福祉に興味を抱いてもらうために、福祉の仕事を実際に経験し福祉への関心への裾野を広げる。

現在ボランティア活動などに携わっている中高生たちを中心に熱心に活動して福祉に興味を抱いている生徒を推薦して貰い「種子島ジュニア福祉大使」として任命し、ボランティア活動、福祉の仕事を友人たちに広めてもらう活動。

*大使に任命したら、ボランティアとして年数回福祉の現場との交流などで関わってもらい、理解を深めてもらう。

以下のような意見がありました。

- ・ 12月のにじいろフェスタで大使任命授与式を行い、その後に繋げていきたいと考えている。
- ・ とても良いアイデアだと思う。SNSを用いてこうした取り組みを伝えていけるとよいが、肖像権等の問題がでてくるので予め、SNSのこと等、話を通していくとよいのではないかな。
- ・ 人員不足に対して島外から呼び込むということ以外に、島内の人材を育てるという視点は大切だ。今後の参考にしていきたい。